

# 三鷹を包含 多義的に

文人  
武藏野

「三鷹の田舎、包みに三つ、

家内の形見」

村上春樹の「またたび浴び  
たタマ」に収録された回文で  
す。妻の形見が実家のある三  
鷹の田舎にあります。包みに  
して三つ、まだ開けられてい  
ません。夫は後ろめたいので  
しょうか、なかなか取りに行  
けずにいます。中身は何でし  
ょうか。考えるだけでも「恐

いですね」という言葉が付さ  
れています。

春樹ファンにとっての東京  
の聖地といえば、店主をして  
いたジャズ喫茶ピーター・キ  
ヤットのあつた国分寺、ヤク  
ルトスワローズへの愛を語る  
中で出てくる外苑前の神宮球  
場、学生時代を過ごした新宿、  
西早稲田あたりでどうか。  
そのほか、「村上朝日堂」  
などのエッセーを読むと、1  
960年代末に都立家政の3  
畳間から三鷹のアパートに引  
越しにいます。中身は何でし  
ょうか。考るだけでも「恐

村上春樹 ②

三鷹市にある雑木林



作家にとってのゆかりの地  
だからといって作品に登場す  
ることは限りませんし、作品に  
登場しても、そこが作家ゆか  
りの地であるとみなせるわけ  
ではありません。村上春樹の  
作品に登場する地名の中には、  
未訪の地もあります。

ただ、長編小説「羊をめぐ  
る冒険」における表象から考  
えても、三鷹は重要なトボス  
(場所)だと思います。でも

それ以上に重要ですが、見落  
としやすいのは三鷹を包含す  
る「武藏野」イメージです。

「武藏境のありぐい」の登場  
によつて、村上春樹の文学に  
おける「武藏野」の多義的な  
記号性がより決定的になつた  
といえます。

「文人の武藏野」でそのこ  
とを論じてゐると並行して  
「夏帆」の改稿版が発表され、  
「夏帆とシロアリの女王」も  
出ました。まもなくその続編  
も出るでしょう。

物語主義者としての中村三  
樹が指摘するように、村上春  
樹のすべての長編小説は「全  
体として「一つのテクスト」  
を形作つてゐる」のです。

(敬称略) (了)  
(武藏野大教授、むさし野文  
学館館長・土屋忍)

\*

過去の連載は、読売新聞オ  
ンラインでお読みい  
ただけます。スマ  
ートフォンはQRコード  
から。

